







病害虫発生予察情報予報第 10 号 (2 月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}		2月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病害虫 (抜粋)
タマネギ	べと病	早生マルチ	並	 タマネギべと病一次感染株
		中晩生	並	
	ボトリチス葉枯症		やや少	
	白色疫病		並	
	ネギアザミウマ		並	
	1. べと病 一次感染株（越年罹病株）は2月～3月に発生盛期を迎えるので、圃場の見回りと罹病株の抜き取り及び圃場外での適切な処分を徹底する。また、主要な二次伝染が始まる2月下旬から、薬剤の定期的な予防散布を確実に実施する。 2. 細菌性病害（腐敗病、軟腐病） 早い作型を中心に発生が散見される。発病株は抜き取り圃場外で適切に処分するとともに、強風雨等の前後には、細菌性病害を対象とした薬剤防除を行う。			
施設果菜類	1. 病害全般（灰色かび病、菌核病、すすかび病、葉かび病、べと病、うどんこ病、疫病、褐斑病） 高湿度条件が続くと発生が増えるので、こまめな換気と加温機や循環扇の稼働によりハウス内の湿度低減を図る。予防的な薬剤防除に努め、特に曇雨天が続くことが予想される場合は徹底する。			
イチゴ (本圃)	うどんこ病	やや少	イチゴ ハダニ類 	
	灰色かび病	やや少		
	ハダニ類	多		
	アブラムシ類	並		
	1. ハダニ類 多発生している圃場が散見される。春期はハダニ類がさらに増殖しやすく、防除が困難となるため、早期発見・早期防除に努める。薬剤防除の際は、薬剤抵抗性発達のおそれが少ない気門封鎖剤を活用する（令和7年 12 月 24 日付け病害虫発生予察注意報第3号参照）。			
キュウリ	べと病	やや少	 キュウリ退緑黄化病	
	うどんこ病	やや少		
	褐斑病	並		
	アザミウマ類	やや少		
	コナジラミ類	並		

	1. タバココナジラミ：退緑黄化病 各地で退緑黄化病の発生が認められる。罹病株は伝染源となるので、圃場をよく観察して早期発見に努め、罹病株は圃場外に持ち出して適切に処分する。また、病原ウイルスを媒介するタバココナジラミの薬剤防除を低密度時から徹底するとともに、本虫の寄生する不要な葉は除去し、適切に処分する。
--	--

作物名	病虫害名 ^{注1)}	2月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)	
トマト	葉かび病	やや少		
	灰色かび病	やや少		
	コナジラミ類	多		
	1. コナジラミ類：黄化葉巻病、黄化病 ウイルス病の発生が増加している。罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、コナジラミ類に対する薬剤防除を厳寒期も継続する。耐病性品種でも感受性品種と同様に防除を実施する。			
キャベツ	菌核病	やや少		キャベツ菌核病
	黒腐病	やや少		
	チョウ目害虫	並		
	1. 菌核病 発病株に形成された菌核は次作の伝染源となるため、早期発見に努め、発病株は圃場から除去して土中に深く埋設するなどして適切に処分する。			
キク	白さび病	並		ハダニ類
	アザミウマ類	並		
	アブラムシ類	並		
	ハダニ類	多		
	ハモグリバエ類	並		
	1. ハダニ類 多発してからでは防除が困難となるため、圃場をよく観察して早期発見に努め、低密度時からの薬剤防除を徹底する。			

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病虫害総合防除計画」も参照してください。

病虫害総合防除計画掲載アドレス

https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji003101844/index.html

QRコード→



Ⅱ. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、（－）：少発生、（－～±）：やや少発生、（±）：並発生、（±～＋）：やや多発生、（＋）：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「佐賀県病害虫総合防除計画」をご参照ください（2 ページの注釈にリンクが有ります）。

写真

- 1～2 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。

2 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 2 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 1 ヶ月予報（令和 8 年 1 月 22 日）を基に、「気温：平年よりやや少ない」、「降水量：平年より少ない」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%) 及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1 ヶ月予報における 2 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	40	40 (7.0℃)	20	やや低い
降水量	50	30 (77.5 mm)	20	少ない

Ⅲ. 2月の予報

タマネギ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 20 圃場、防除員 4 圃場

調査日：1月17～23日

1. ベと病

1) 予報の内容

【早生】発生量：平年並

【中晩生】発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1、図2）

【早生】発生株率：0%（平年0.003%、前年0%）、平年比：並（±）

【中晩生】発生株率：0%（平年0.002%、前年0%）、平年比：並（±）

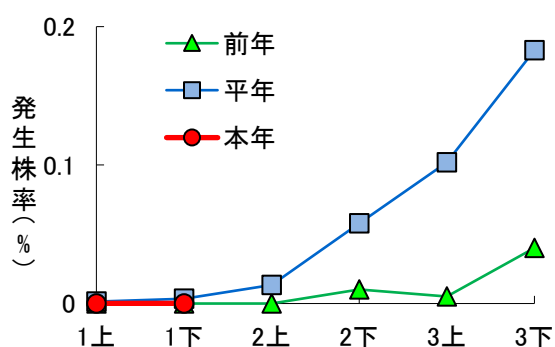


図1 早生タマネギでのべと病（一次感染株）の発生推移

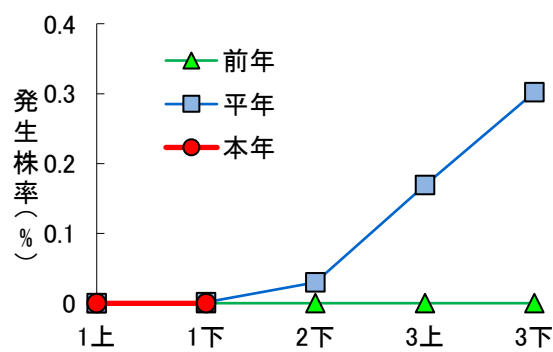


図2 中晩生タマネギでのべと病（一次感染株）の発生推移

注1）図1と図2の平年値は、2017～2025年の9年間平均。

注2）3月までの発生の主体である一次感染株の発生推移を示した。一次感染株の葉に形成された分生孢子が最初の二次伝染源となる。このため、一次感染株の発生量は、春期のまん延に直接的に関係する。

(2) 圃場の菌密度

平成25年以降、発生株率・発生圃場率ともに高い傾向が続いており、本圃の菌密度は高いと推察される。

（±～+）（図3参照）

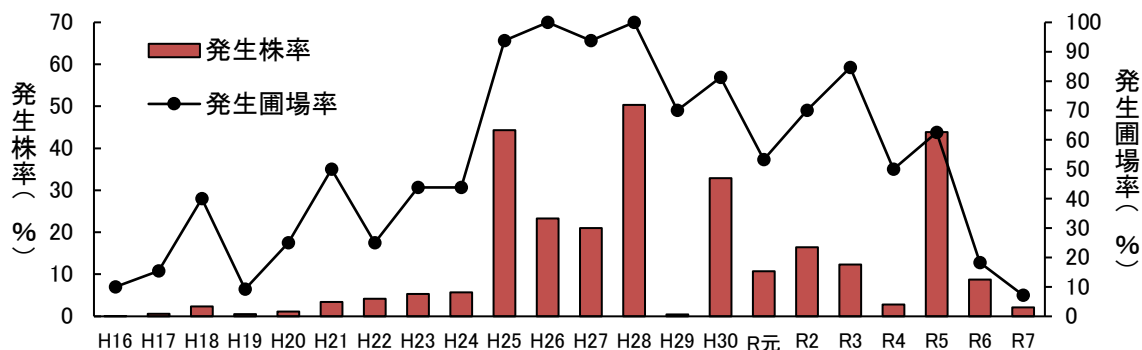


図3 タマネギ本圃でのべと病の発生圃場率と発生株率の年次推移（4月下旬の定期調査結果）

(3) 2月の気象予報

降水量は少なく、少発生の条件〈ー〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 一次感染株（越年罹病株）は2月～3月に発生盛期を迎えるので、圃場の見回りと罹病株の抜き取り及び圃場外での適切な処分を徹底する。
- (2) 主要な二次伝染が始まる2月下旬から、薬剤の定期的な予防散布を確実に実施する。

2. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0.7%（平年1.9%、前年0.2%）

平年比：並〈±〉

(2) 2月の気象予報

気温はやや低く、降水量は少なく、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生を認めた圃場では、低密度時から薬剤防除を行う。本虫は薬液のかかりにくい葉の隙間に寄生しているので、薬剤はこれらの部位にもかかるよう丁寧に散布する。

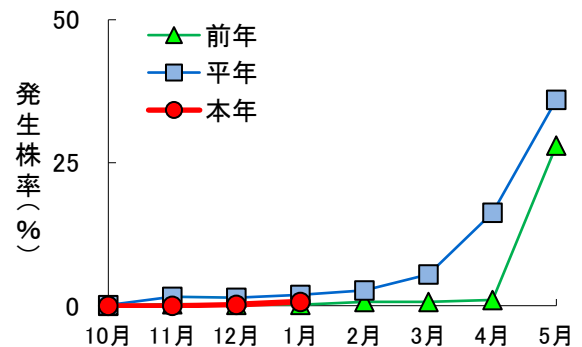


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移

イチゴ（本圃）

[【概要に戻る】](#)

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場

調査日：1 月 16～26 日

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：39.8%（平年 21.5%、前年 15.3%）

平年比：多〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、早期発見、早期防除に努める。
- (2) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏にいるハダニ類に確実に薬液がかかるように、株全体に十分量を丁寧に散布する。
- (3) 薬剤の効果は圃場によって異なるため、薬剤散布した後は、必ず効果を確認する。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、気門封鎖剤や異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- (4) 天敵を放飼した圃場であっても、ハダニ類の増加を認めた場合は、天敵に影響の小さい薬剤による防除を行う。

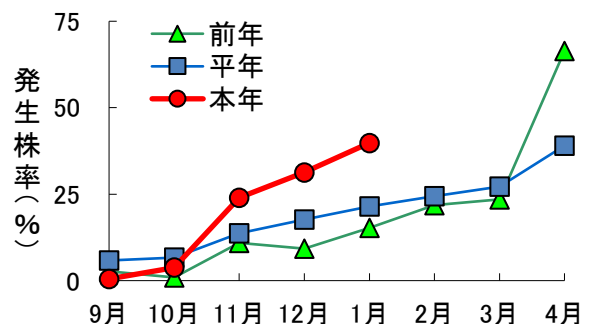


図 ハダニ類のイチゴでの発生推移

キュウリ

[【概要に戻る】](#)

定期調査3圃場、防除員4圃場

調査日：1月13～26日

1. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

発生株率：0%（平年1.4%、前年0%）

平年比：やや少（～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) ミナミキイロアザミウマは黄化えそウイルスを媒介するため、低密度時から薬剤防除を徹底する。

(2) 黄化えそ病の罹病株は伝染源となるので、圃場をよく観察して早期発見に努め、罹病株は圃場外に持ち出して適切に処分する。

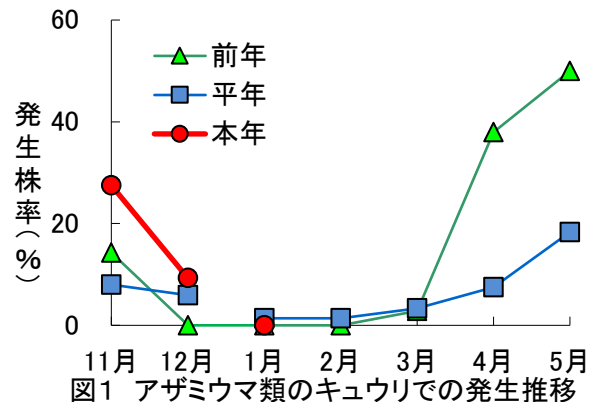


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

発生株率：0.6%（平年2.2%、前年6.4%）

平年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) タバココナジラミは退緑黄化ウイルスを媒介するため、低密度時から薬剤防除を徹底する。

(2) 本虫の寄生する不要な葉は除去し、適切に処分する。

(3) 退緑黄化病の罹病株は伝染源となるので、圃場をよく観察して早期発見に努め、罹病株は圃場外に持ち出して適切に処分する。

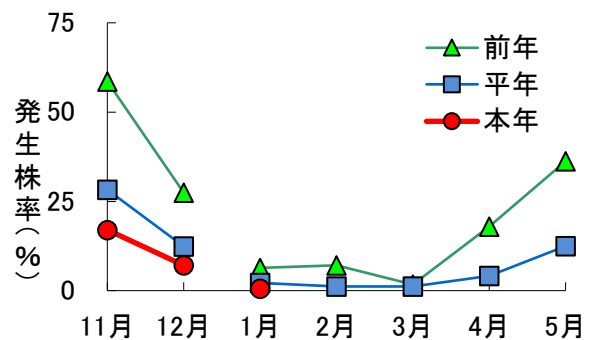


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

トマト

[【概要に戻る】](#)

定期調査：6圃場、防除員4圃場

調査日：1月19～21日

1. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率: 0% (平年 2.0%、前年 0%)

平年比: やや少 (一〜±)

(2) 2月の気象予報

降水量は少なく、少発生の条件 (一)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発病果・発病葉は直ちに除去し、圃場外へ持ち出し適切に処分する。

(2) 発生初期からの薬剤防除を徹底する。

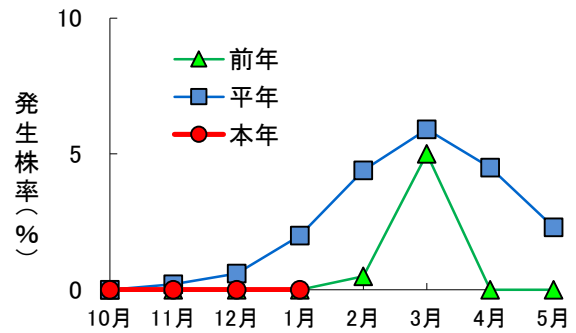


図1 トマト灰色かび病の発生推移

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量: 平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率: 8.0% (平年 3.3%、前年 8.0%)

平年比: 多 (+)

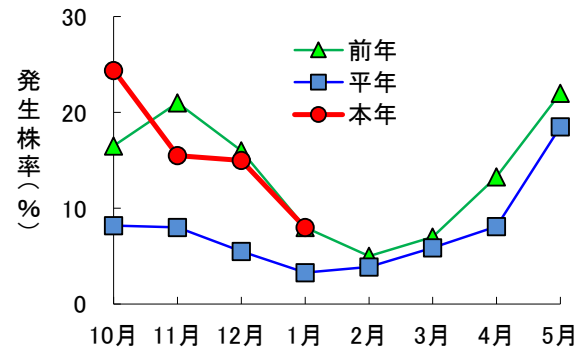


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫・蛹は中〜下位葉に寄生していることが多いため、不要な葉は除去し、適切に処分する。

(2) ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、コナジラミ類に対する薬剤防除を厳寒期も継続的に実施する。

(3) 耐病性品種でも感受性品種と同様に防除を実施する。

(4) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。抵抗性発達のおそれが少ない気門封鎖剤も活用する。

キャベツ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 8 圃場

調査日: 1月19日〜21日

1. 菌核病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率: 0% (平年 0.7%、前年 0%)

平年比: やや少 (一〜±)

(2) 2月の気象予報

降水量が少なく、少発生の条件 (一)

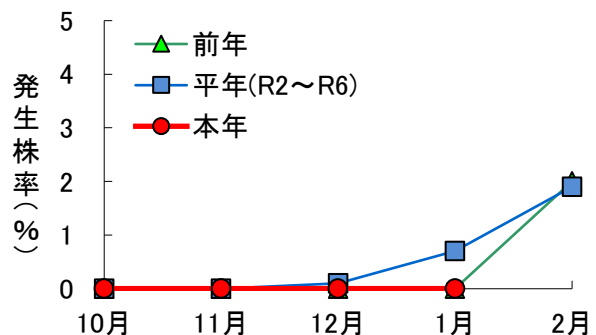


図1 キャベツ菌核病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発病株に形成された菌核は次作の伝染源となるため、早期発見に努め、発病株は圃場から除去して土中に深く埋設するなどして適切に処分する。

定期調査：7 圃場
調査日：1 月 19～21 日

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図 1 参照）

発生株率：0%（平年 0%、前年 0%）

平年比：並（±）

(2) 2 月の気象予報

降水量は少なく、少発生の条件（－）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図るとともに、発生前から定期的に薬剤を散布する。

(2) 散布する際は、葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるように散布する。

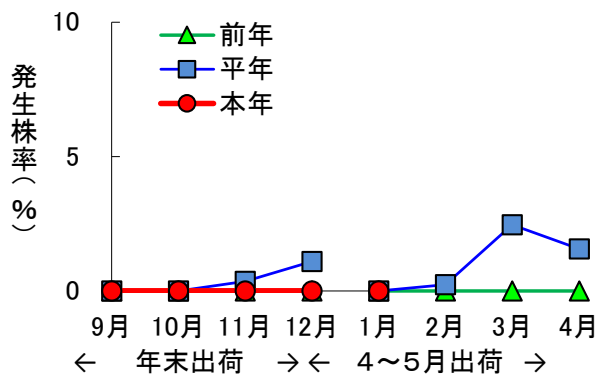


図1 キク白さび病の発生推移

2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査

発生株率：2.3%（平年 0.6%、前年 1.4%）

平年比：多（+）

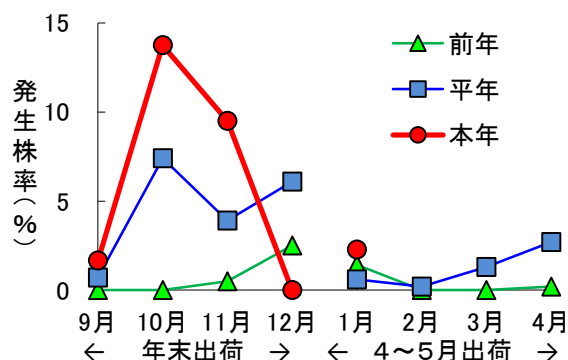


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発してからでは防除が困難となるため、圃場をよく観察して早期発見に努める。

(2) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう散布する。

(3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

病虫害総合防除計画掲載アドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji003101844/index.html

防除セ QR コード



防除計画 QR コード

